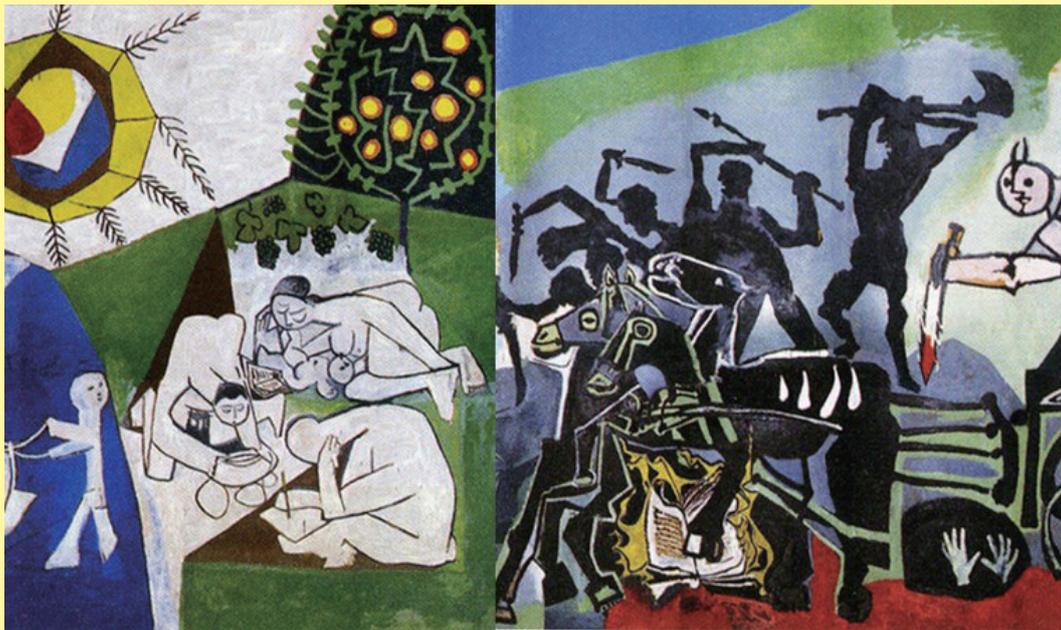


とめよう!戦争 なくせ!貧困 今わたしたちができること

国際婦人デー 3・8 東京集会

ここに木がはえる、
その木は
生きた根をもつ木、
その木は、殉教者の
骨をこやしにして、
流された血を
その根で飲み、
土のなかから涙を
吸いとる。
そうして溜めた養分を
枝の先から、
幹にまでしみこませる。
その木の花は、
顔を見せない花だった、
ときには埋もれた花だった
あるときには
惑星のように、
花びらを輝かせた。

(パブロ・ネルーダ
「解放者たち」より)



絵=パブロ・ピカソ「戦争と平和」(部分、1952年)

パレスチナで奪われた多くの女性や子どもたちの命、消えない戦争の火種、米軍の暴力にさらされる沖縄の女性たち、拡大する貧困の間……。世界にあふれる不条理とどう向き合ったらいいのでしょうか。

集会では、戦争を起こす根源にあるものをたどりながら、難解にも見える世界の動きを解きほぐしていきたいと思います。

韓国の尹錫悦大統領を追い落とした、とりわけ女性たちのエネルギーは何に根ざしているのでしょうか。お互いのHOWを持ち寄ってつながり、明日からのエネルギーに変える空間を一緒に作りましょう!

3・8国際婦人デー東京集会にぜひ参加を!

2025.3.8 (土)
午後1時30分開始(1時開場)
会場: 文京区民センター3A

(裏面に地図あり) デモ出発4時30分

資料代: 1000円(学生500円)

集会プログラム

●基調報告 集会実行委員会

●特別報告

「激動する世界——ガザ、シリア、キューバ」

富山栄子(国際交流平和フォーラム代表)

●詩よみ——ガザ、そして世界の苦しみと抵抗

アラリール「私が死ななければならないのなら」(ガザ)

コ・ヘリム「怒り」(韓国)

ネルーダ「解放者たち」(ラテンアメリカ)

よみ手= 劇団もっきりや

歌 「自由の木」

●発言(労働、介護、反原発)

中原純子 全労協全国一般東京労組

鈴木圭子 JAL被解雇者労働組合(JHU)

小笠原七重 全国一般・全労働者組合

●発言者のクロストーク

●国際連帯メッセージ紹介

反戦平和と女性の権利確立をかかげて全世界の女性と連帯しよう

★なぜ「国際的な女性の記念日」？

時代をさかのぼること約100年。第一次大戦へと向かう危機のなか、女性たちは参政権や労働権を求めて活動していました。「女性を差別・搾取して儲けるものと、戦争をしかけて暴利をむさぼるものは一体。つまり資本主義というしくみそのものが元凶。国境を超えて奪い・搾り取るために戦争する資本に対して、国際連帯でたたかう女性の日が必要だ」とクララ・ツェトキンらが提唱し国際婦人デーが創設されました。資本主義というシステムが限界にきている今、この搾取と戦争の残虐性はとどまるところを知りません。日本政府は、沖縄を軍事植民地化し、女性たちを米軍の暴力にさらし続けながら、「戦争する国」となるため憲法改悪をねらっています。



写真＝アメリカにおける米韓合同軍事演習反対行動

★敗戦80年、日本は常に戦争をしかける側

統一教会、裏金問題、被災地は放置、物価高騰にも手を打たず…。政府に対する不信はとくに極みに達し、政府の言うことは微塵も信用ならないと身にしみているはずなのに、なぜ「他国が攻めてくるかも」と言う時だけ信じられるのでしょうか。政府は自らへの批判をそらし、軍事大国化をおしすすめるために、マスメディアを駆使して排外主義を煽っているのです。しかも、その相手とされている朝鮮や中国は、日本が侵略植民地支配した国々。その「脅威」を口実に政府は、在日朝鮮人の子どもたちが自らの歴史や言語を学ぶ権利を侵害しつづけています。被害者意識が旺盛な日本ですが、わたしたちはずっと誰かの足を〈踏んでいる側〉ではないでしょうか。

スローガン

- 憲法改悪反対！緊急事態条項で政府権限を拡大するな
自衛隊の明記をやめろ
- 沖縄の島じまを軍事要塞にするな！
- イスラエルのガザ虐殺を糾弾する！
- 中国・朝鮮に対する敵視政策をやめろ！
マスコミは戦争を煽るな
- 原発は廃炉に！「最大限活用」方針を撤回せよ
- すべての被災地の命とくらしを守れ
- 性暴力撲滅！性差別・人権蹂躪を許さない
- 「非正規」・フリーランス、
すべての労働者の権利を守れ



写真＝プエルトリコでのパレスチナ連帯行動

★「自己責任」なんてコトバは捨てよう

男女雇用機会均等法ができて今年で40年。しかし女性の貧困率は改善するどころか、働く单身女性やシングルマザー、年金生活者を含めて女性の約半数が貧困ラインで生活しています。これは、最低賃金やケア労働賃金を低く抑え込むなど、大多数の働く女性を生かさず殺さず使い捨てる、国・資本の明確な制度設計によるものです。たとえば「103万円の壁」の引き上げ策は、こうした女性の貧困固定化を前提とした小手先の弥縫策に過ぎません。必要なのは、生活できる賃金を基準とした安定した雇用の確保です。それは、国の責任において保障されるべき女性の権利、すべての労働者の権利です。女性が生きられない世の中をつくる政府を退散させるのに、一番ネックになっているのは、わたしたちのなかに棲みついた自己責任論、能力主義、そして諦めではないでしょうか。

★わたしたちの求める社会をわたしたちの手で

いつも人と競争させられ急がされ、気づけば心が荒んでいる。こんな働き方・生き方をわたしたちは望むでしょうか？物質的にも精神的にも貧しくさせられる儲け主義の社会は、女性を差別・抑圧する社会です。沖縄や韓国のたたかいに連帯しながら、わたしたちの未来を作っていきましょう。今わたしたちができることを出し合い、共にこの一歩を踏み出そう！

■会場へのアクセス

